

電業特報編集部・プチ特集 2020.07

変わらないままに変わる／変えないままに変わる 小江戸・川越が構築してきた強固で柔軟な在り方 ～江戸・明治・大正・昭和・令和が調和～

(取材・構成／本紙編集部)

写真1／大火をきっかけに明治時代に増えた川越市中心市街地の蔵造り



☆年間 700 万人以上の旅行者が川越を訪問

小江戸・川越は首都圏でも抜群の人気を誇る観光地だ。川越を昨年（2019年）訪れた観光客はなんと 775 万人。そのうちの 31 万人強が外国人観光客だったそう。なかでも台湾からの旅行者が突出して多く、その傾向は過去 5 年間以上続く現象になっている。

取材は天候不順だった7月中旬を中心に実施したが、その際に非常に目立ったのは、浴衣を着て蔵造りの街を歩くカップルや家族連れの様だった。そしてその人

たちのほとんどが、台湾からの訪日客（在日客？）なのだった。

小江戸・川越がなぜ台湾の人たちに大人気なのかはよくわからない。だが、たとえば台北などには戦時中に駐留していた日本軍や政府関係者が建設した「昭和モダン」の建物が現在もたくさん残されていると聞く。台湾の人々にとっては戦時中の負の遺産でもあるわけだが、同時にそれらの建物は現在も公共施設などに使われ、現地の人々に親しまれていると聞く。

*本文、後略